

厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）

（分担）研究報告書 平成23年度

重症の慢性疾患児の在宅と病棟での療養・療育環境の充実に関する研究

—重症の慢性疾患児の在宅での療養・療育環境の充実に関する研究— 研究分担者総括

研究分担者 田村正徳（埼玉医科大学総合医療センター）

研究協力者

船戸正久、竹本潔、馬場清、柏木淳子、飯島禎貴、塩川智司*

（大阪発達総合療育センター 小児科、小児外科*）、

廣島和夫**、梶浦一郎**、近藤正子***、杉浦みき***

（南大阪療育園 整形外科** 医療相談室***）

齋田幸次、澤 芳樹、伯井俊明

（大阪府医師会、周産期医療委員会）

中村知夫（国立成育医療研究センター）

鶴田志緒 長谷川久弥（東京女子医科大学東医療センター）

側島久典、奈倉道明、森脇浩一、高田栄子、國方徹也、櫻井淑男、

加藤稲子、長谷川朝彦（埼玉医科大学総合医療センター）

研究要旨

乳幼児を含む小児の在宅医療支援のために以下の研究を3年間にわたり漸次実施する。①関係者を結ぶネットワークと研究会を発足させて情報共有ツールと情報共有体制を構築する。②臨床応用性の高い情報収集と提供体制を構築する。③研究会員と意見交換しながら情報提供体制の有用性を検証する。④現行の医療福祉制度との整合性を確認する。⑤在宅患者の正確な心拍数と SpO2 モニターを家族・関連機関・医療スタッフが共有するシステムを開発する。⑥在宅患者の急変時だけでなく地震や津波などの災害時にも速やかな対応を家族に指示出来るシステムを開発する。それらを統合して①我が国における乳幼児の在宅医療支援体制の標準化と評価方法を確立する。

23 年度には、①のために埼玉県と大阪をモデル地域として小児在宅医療支援のための関係者を結ぶネットワークを立ち上げ、地域毎に定期的に研究会を開催して、地域における小児在宅医療支援を推進するとともに現在の小児在宅医療の問題点を洗い出す作業を進めた。更に、全国から 357 名の関係者を結集して 23 年 10 月 29 日に大宮ソニックシティにて第一回日本小児在宅医療支援研究会を開催し、全国規模で小児在宅医療の問題点の分析と解決法を検討した。同時に②③の為に本研究会の会員制ウェブサイト <http://www.happy-at-home.org/> を立ち上げ研究会員のアンケート調査などをもとに内容を充実させつつある。また、HOT 施行中の慢性肺疾患児に対してパルスオキシメータと PHS を用いた在宅モニタリングシステムを開発し、急性期の家族の不安解消に役立つだけでなく、慢性期の適切

な呼吸管理にも有用であることを明らかにした。しかしながらこうした家族と患者の安全と安心を保障するようなシステムの普及には保険制度だけでなく中間施設の体制整備が重要であることも明かとなった。

A. 研究の背景と目的

我々は、平成 20-22 年度厚生労働省「重症の慢性疾患児の在宅と病棟での療養・療育環境の充実に関する研究」（研究代表者田村正徳）で全国の新生児医療施設長期入院児の動態調査を実施し、NICU 長期入院児の小児医療機関への移行は促進されたが、重心施設側の受け入れは困難で、在宅医療が促進されない限り長期入院場所が新生児医療施設から小児医療機関に移行するに留まる事を明らかとした。しかし、在宅療養診療所や訪問看護ステーションによる乳幼児の在宅医療支援は不十分で介護保険も適用されないので家族の肉体的・精神的・経済的負担が大きい。更に小児医療機関ではレスパイト入院に保険適応が無いため重心施設のような短期入所も困難である上に急性増悪時の受け入れ保障も容易ではない等が乳幼児の在宅医療促進の主要阻害要因となっていた。

この様に重症の慢性疾患児の在宅医療には、課題が山積している。本研究ではこれらの課題を明らかにした上で、患児の心身の成長発達に最適で家族にとって負担の少ない療養・療育環境の整備方策を研究し政策提言することを目的とする。

B. 研究課題

本研究班の課題は以下の通りである。

1. 乳幼児を含む小児在宅医療の各地域および全国的な問題点を明確化する。
2. 海外の小児在宅医療や我が国の成人・老人の在宅医療との比較検討を通じて我が国の小児在宅医療の課題を明確化する。
3. それらの情報を小児在宅医療関係者が共有するシステムとツールを構築する。
4. 病院小児科-重心施設-在宅療養支援診療所・訪問看護ステーション-地域保健行政関係者を結ぶネットワークを構築する。
5. 安全で安心出来る小児在宅医療モニタリングシステムを開発する。
6. 地域の特性に合致した小児在宅医療支援体制モデルを提示する。
7. 日本の小児在宅医療を推進するための方策を政策提言する。

C. 研究方法

乳幼児を含む小児の在宅医療支援のために以下の研究を3年間にわたり漸次実施する。

- ①関係者を結ぶネットワークと研究会を発足させて情報共有ツールと情報共有体制を構築する。
- ②臨床応用性の高い情報収集と提供体制を構築する。
- ③研究会員と意見交換しながら情報提供体制の有用性を検証する。
- ④現行の医療福祉制度との整合性を確認する。
- ⑤在宅患者の正確な心拍数と SpO2 モニターを家族・関連機関・医療スタッフが共有するシステムを開発する。
- ⑥在宅患者の急変時だけでなく地震や津波などの災害時にも速やかな対応を家族に指示出来るシステムを開発する。

それらを統合して

- ⑦我が国における乳幼児の在宅医療支援体制の標準化と評価方法を確立する。

具体的には年度別に以下のように研究を進める。

平成23年度：

- ①埼玉県と大阪に地域的な小児在宅医療支援研究会を発足させ、それぞれの地域の小児在宅医療の課題と解決法を探る。
- ②定期的な研究会を通じて乳幼児を含む小児在宅医療の課題を明確にするとともにその解決策や good practice 事例を検討する。
- ③メーリングリストを活用して病院小児科-重心施設-在宅医療支援診療所・訪問看護ステーション-地域保健行政関係者を結ぶ地域情報ネットワークを構築する。

- ④研究協力員とともに日本小児在宅医療支援研究会を発足させ全国規模での関係者の問題意識の共有化を図る。
- ⑤患児にとって安全で家族が安心できる在宅患者モニターを関連機関・医療スタッフが共有するシステムの開発に着手する。
- ⑥それらの情報を学会 Web Site を通じて患者・家族を含めた関係者が共有出来る体制を整備する。

平成 24 年度：

- ⑦上記のネットワークと研究会活動の普及充実に促進する。

⑧地域の特性に合致した小児在宅医療支援体制モデルを構築する。具体的には、課題項目毎に課題発生時期、原因（医学的、社会的、心理的）、領域職種（医師、看護師、保育、心理士、MSW、機能訓練士）、連携機関（病院、訪問診療所、訪問看護ステーション、児童相談所など）を分類図式化する。さらに問題の相互関係の図式化を試みる。そのうえで、事例ごとにこの図式にあてはめて、問題の優先順位、対応可能な職種、サービスの充足度、不足度を検討していく。このように図式化定量化したモデルを構築し、さらには社会行政制度の変化に応じて臨機応変に修正して提供できるシステムとする。

平成 25 年度：

⑦上記のネットワークと研究会活動の普及充実を促進する。

⑨上記の研究成果を統合して、我が国における乳幼児の在宅医療支援体制の標準化と評価方法を確立して政策提言する（NICU や小児科病棟長期入院児の減少、人件費、時間、要員、福祉サービス利用状況、医療サービス利用状況だけでなく、本人家族の在宅生活充実度の評価、経時的に評価するための指標の確認・設定、前方視的な指標収集体制をつくる。）。

D. 23年度の研究成果

①埼玉県と大阪に地域的な小児在宅医療支援研究会を発足させ、それぞれ定期的に研究会を開催し、地域の小児在宅医療の課題と解決法を探った。

- ・重症の慢性疾患児の在宅での療養・療育環境の充実に関する研究（3）地域小児在宅医療支援ネットワークの構築のモデル事業としての埼玉県小児在宅医療支援研究会活動（奈倉道明等）
- ・重症の慢性疾患児の在宅での療養・療育環境の充実に関する研究—（4）埼玉県における在宅医療の小児患者の実態調査（奈倉道明等）
- ・重症の慢性疾患児の在宅での療養・療育環境の充実に関する研究—（5）埼玉県の中核病院の小児在宅医療担当医師に対するアンケート調査：その立場と心情について（奈倉道明等）

- ・重症の慢性疾患児の在宅での療養・療育環境の充実に関する研究（6）NICU 長期入院者対策と提言への対応（船戸正久等）

②定期的な研究会を通じて乳幼児を含む小児在宅医療の課題を明確にするとともにその解決策やgood practice 事例を検討した。

- ・重症の慢性疾患児の在宅での療養・療育環境の充実に関する研究（3）地域小児在宅医療支援ネットワークの構築のモデル事業としての埼玉県小児在宅医療支援研究会活動（奈倉道明等）
- ・重症の慢性疾患児の在宅での療養・療育環境の充実に関する研究（6）高度な医療的ケアを必要とする乳幼児と家族のための在宅移行支援策『国立成育医療研究センター中間ケア病床における在宅医療移行の現状と問題点の検討』（中村知夫等）
- ・重症の慢性疾患児の在宅での療養・療育環境の充実に関する研究（7）NICU 長期入院者対策と提言への対応（船戸正久等）
- ・重症の慢性疾患児の在宅での療養・療育環境の充実に関する研究（8）NICU の後方支援—大阪発達総合療育センターの新たな役割（船戸正久等）

③メーリングリストを活用して病院小児科-重心施設-在宅医療支援診療所・訪問看護ステーション-地域保健行政関係者を結ぶ地域情報ネットワークを構築した。

- ・重症の慢性疾患児の在宅での療養・療育環境の充実に関する研究（3）地域小児在宅医療支援ネットワークの構築のモデル事業としての埼玉県小児在宅医療支援研究会活動（奈倉道明等）

④研究分担者と研究協力員等が世話人となって日本小児在宅医療支援研究会を発足させ第一回全国大会を 23 年 10 月 23 日に大宮ソニックシティにて開催し、全国規模での関係者の問題意識の共有化を図った。

- ・重症の慢性疾患児の在宅での療養・療育環境の充実に関する研究（1）第 1 回日本小児在宅医療支援研究会開催へのプロセスとその成果（側島久典等）

⑤患児にとって安全で家族が安心できる在宅患者モニターを関連機関・医療スタッフが共有するシステムとして HOT 施行中の慢性肺疾患児に対してパルスオキシメータと PHS を用いた

在宅モニタリングシステムの開発に着手した。

・重症の慢性疾患児の在宅での療養・療育環境の充実に関する研究 (9) 高度な医療的ケアを必要とする乳幼児と家族のための在宅移行支援策～在宅酸素療法施行中の乳幼児に対する PHS 回線を用いた在宅モニタリングシステム～(鶴田志緒等)

⑥それらの情報を関係者が共有出来る体制を整備するために学会 Web Site を (<http://www.happy-at-home.org/>) 立ち上げた。

・重症の慢性疾患児の在宅での療養・療育環境の充実に関する研究 (2) 在宅医療を必要とする小児患者とその家族を支援するウェブサイトとメーリングリストの立ち上げに関する研究 (奈倉道明等)

E. 考察

23 年度研究は、当初の予定通り順調に進めることが出来た。まず埼玉県と大阪をモデル地域として小児在宅医療支援のための関係者を結ぶネットワークを立ち上げ、地域毎に定期的に研究会を開催して、地域における小児在宅医療支援を推進するとともに現在の小児在宅医療の問題点を洗い出す作業を進めることが出来た。その会の世話人や当研究班の研究分担者・研究協力員が企画して、23 年 10 月 29 日に大宮ソニックシティにて開催した第一回日本小児在宅医療支援研究会には全国から予想を上回る 357 名の関係者が集まり、全国規模で小児在宅医療の問題点の分析と解決法を熱心に検討することが出来た。②③研究会員と意見交換しながら情報提供体制の有用性を検証する同時に臨床応用性の高い情報収集と提供体制の構築の第一歩として日本小児在宅医療支援研究会の会員制ウェブサイト (<http://www.happy-at-home.org/>) を立ち上げた。今後は研究会員のアンケート調査などをもとに内容を充実させたいと考えている。また、HOT 施行中の慢性肺疾患児に対してパルスオキシメータと PHS を用いた在宅モニタリングシステムを開発し、急性期の家族の不安解消に役立つ

つだけでなく、慢性期の適切な呼吸管理にも有用であることを明らかにした。しかしながらこうした家族と患者の安全と安心を保障するようなシステムの普及には保険制度だけでなく中間施設の体制整備が重要であることも明らかとなった。

F. 研究発表

1. 学会発表

1. 船戸正久、臈田幸次、澤芳樹、伯井俊明：NICU 長期入院者対策と提言への対応. 平成 23 年度小児在宅医療研修会、大阪、2012.2.2.
2. 船戸正久：NICUnNICU の長期入院者対策と提言への対応. 第 3 回小児医療を考える会、2011. 7. 16.
3. 船戸正久：NICU から療育へ. 第 1 回小児在宅医療支援研究会、2011.10.29、埼玉.
4. 船戸正久：療育施設からみた在宅医療の現状と課題. 第 2 回小児在宅医療地域連携研修会、大阪、2012.2.16
5. 船戸正久、他：NICU の後方支援—大阪発達総合療育センターの新たな役割. 第 37 回日本重症心身障害学会、2011.9.29-30、徳島.
6. 船戸正久、他：NICU の後方支援—大阪発達総合療育センターの新たな役割. 第 192 回大阪小児科学会、2011.12.3、大阪.
7. 船戸正久：NICU から療育へ. 第 1 回小児在宅医療支援研究会、2011.10.29、埼玉.
8. 竹本潔、船戸正久、他：当センターでのシ

- ョートステイの現状と課題について. 第 37 回日本重症心身障害学会、2011.9.29-30、徳島
9. 長谷川久弥：新生児呼吸機能の臨床応用. 東京女子医科大学学会雑誌 81(3):165-170, 2011.
10. 長谷川久弥：新生児期～学童期の肺機能の検査方法と評価. 周産期医学 41(10):1298-1303, 2011.
11. Hasegawa H, Kawasaki K, Inoue H, Umehara M, Takase M; Japanese Society of Pediatric Pulmonary Working Group (JSPPWG). Epidemiologic survey of patients with congenital central hypoventilation syndrome in Japan. *Pediatr Int.* 2011 Sep 29. doi: 10.1111/j.1442-200X.2011.03484.x.
12. 長谷川久弥：NICU から在宅へ - 新生児の在宅酸素療法 (HOT) -. *NICU mate* 33:8-10, 2012
13. 長谷川久弥：日本の小児 HOT の現状. 第 13 回東京小児呼吸ケア HOT シンポジウム. 2011.2.26. (東京).
14. 鶴田志緒：ワークショップ「新生児呼吸管理の新たな展望」. *NICU 退院後の CLD 管理 - パルスオキシメータを用いた HOT の在宅モニタリングシステム -. 第 56 回日本未熟児新生児学会学術集会.* 2011.11.15
15. 鶴田志緒：企業企画セッション「在宅モニタリング」. *パルスオキシメータを用いた在宅モニタリング.* 2012.2.16. (大町)
16. 奈倉道明. シンポジウム それぞれの立場からの小児在宅医療支援(1)病院小児科の立場から、第1回日本小児在宅医療支援研究会、さいたま市、2011.10.29
17. 奈倉道明、森脇浩一、側島久典、田村正徳. 埼玉県における小児患者の在宅医療に対する取り組み. 第49回埼玉県医学会総会、さいたま市、2011.1.22
18. 余谷暢之、中村知夫、小穴慎二、木暮紀子、西海真理、宮澤佳子、横谷進：当センターにおける在宅重症児の病診連携の実際. 第1回日本小児在宅医療支援研究会. 大宮. 2011年10月29
19. 長谷川朝彦 國方徹也 石黒秋生 川崎秀徳 田村正徳 側島久典;当施設における先天性筋強直性ジストロフィー症例の検討,第 117 回埼玉県小児科医会 第 144 回日本小児科学会埼玉地方会. 2011 ; さいたま市
20. 田村正徳;NICU長期入院児から小児在宅医療支援の重要性,平成 23 年度長野県新生児看護セミナー. 2011, 長野県
21. 田村正徳;シンポジウム1 小児在宅医療の現状,第 2 回日本小児在宅医療・緩和ケア研究会. 2011, 東京都
22. 田村正徳;重症新生児に対する療養・療育環境の拡充に関する総合研究,成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 講演会「健やかな子どもの心と体のために」～組織的・科学的アプローチによる分析～. 2011, 東京都
23. Masanori Tamura, Masanori

- Fujimura,Satoshi Kusuda,Fumika Yamaguchi,Averoy A. Fanaroff,Neil Marlow;Personal view on the management of babies born at less than 26 weeks' gestation,International Neonatal Forum. 2010 ; 盛岡
24. Masanori Tamura;Defferent ways of tracheal suction to prevent MAS.,2nd Neonatal Resuscitation Research Workshop. 2010 ; Vancouver Canada
25. Masanori Tamura,Fumika Yamaguchi, Kanako Ito.;Treatment Preferences for the Neonates with Trisomy 18 in Japan.,Pediatric Academic Societies 2010. 2010 ; Vancouver Canada
26. 鳥山みひろ 栗田聖子 小林信吾 漆原康子 星野恭子 高田栄子 荒川浩 森脇浩一 田村正徳;二相性けいれんと MRI にて遅発性拡散低下を呈した肺炎球菌髄膜脳炎の男児例,第 115 回埼玉県小児科医会 第 142 回日本小児科学会埼玉地方会. 2010 ; さいたま市
27. 田村正徳;新生児蘇生法 (NCPR)普及事業の現状と Consensus21 への準備状況,日本蘇生学会第 29 回大会 日本からの発信. 2010 ; 栃木県宇都宮市
28. 山名啓司 漆原康子 西澤賢治 奈倉道明 櫻井淑男 田村正徳;胸水中 ADA 値と QuantiFERON-TB2G 検査にて診断確定に至った結核性胸膜炎の 1 例,第 113 回埼玉県小児科医会 第 140 回日本小児科学会埼玉地方会. 2010 ; さいたま市
29. 長谷川朝彦 奈倉道明 高田栄子 側島久典 田村正徳;NICU 出身重症児の支援のために地域中核病院に必要な条件について,第 52 回日本小児神経学会総会. 2010 ; 福岡市
30. 奈倉道明 長谷川朝彦 高田栄子 側島久典 田村正徳;重症児の緊急入院受け入れに関する全国アンケート調査について,第 52 回日本小児神経学会総会. 2010 ; 福岡市
31. 田村正徳;新生児医療と重心医療,第 121 回熊本小児科学会 熊本県寄付講座 重症心身障がい学講座 開設記念シンポジウム. 2010 ; 熊本市
32. 田村正徳;新生児の心肺蘇生ガイドラインと新しい方向性,第 113 回日本小児科学会学術集会 分野別シンポジウム. 2010 ; 盛岡
33. 田村正徳;NICU と重症心身障害児の現状,第 36 回日本重症心身障害学会. 2010, 東京都江戸川区
34. 田村正徳;新生児医療と重心医療,熊本県寄付講座 重症心身障がい学講座 開設記念シンポジウム 「重症心身障がい医療の展望」. 2010, 熊本県
35. 長谷川朝彦 奈倉道明 加藤康子 櫻井淑男 田村正徳;ピッカースタッフ脳幹脳炎と診断したムンプス髄膜炎の 9 歳女児の一例,第 110 回埼玉県小児科医会 第 137 回日本小児科学会埼玉地方会. 2009 ; さいたま市
36. 荒川浩 田村正徳;「子どもの成長の変化について」～背が低いままだとどうなる

- の?~,学校保健・保険活動セミナー. 2009;
さいたま市
37. 山口文佳、田村正徳;新生児医療における
生命倫理的調査結果報告第三部 18 ト
リソミー児への対応,第 45 回日本周産
期・新生児医学会. 2009 ; 名古屋市
38. 山口文佳、田村正徳;新生児医療における
生命倫理的調査結果報告第四部 「蘇生
の時間」と「病理解剖率」,第 45 回日本
周産期・新生児医学会. 2009 ; 名古屋市
39. 齋藤孝美、高田栄子、側島久典、田村正徳;
極低出生体重児の発育—6 歳時発育にみ
る早期経静脈栄養導入の効果—,第 45 回
日本周産期・新生児医学会. 2009 ; 名
古屋市
40. 山口文佳、田村正徳;新生児医療における
生命倫理的調査結果報告第二部 出生
体重 400 g 未満児への対応,第 45 回日本
周産期・新生児医学会. 2009 ; 名古屋
市
41. 山口文佳、田村正徳;新生児医療における
生命倫理的調査結果報告第一部 在胎
数 22 週児への対応,第 45 回日本周産
期・新生児医学会. 2009 ; 名古屋市
42. 國方徹也、栗嶋クララ、本田梨恵、伊藤智
朗、石黒秋生、高山千雅子、江崎勝一、鈴
木啓二、側島久典、田村正徳;aEEG が劇
的に変化した重症仮死の 1 例を通して、脳
モニタリングの普及に向けて,第 45 回日
本周産期・新生児医学会. 2009 ; 名古屋
市
43. 岡明、鈴木啓二、菅波佑介、近藤敦、高橋
秀弘、正木宏、鈴木理永、田村正徳;実験
的絨毛羊膜炎による脳室周囲白質軟化症
のラットモデル,第 45 回日本周産期・新生
児医学会. 2009 ; 名古屋市
44. 山口直人 高橋輝 金子節子 下平雅之
奥起久子 森脇浩一 水田桂子 宮城絵
津子 田村正徳 側島久典 峰真人;産科
退院後総ビリルビンが 30mg/dL 前後とな
って再入院となった 2 症例,第 136 回日本
小児科学会埼玉地方会. 2009 ; さいたま
市
- ## 2. 著書・論文
1. 田中恭子.;ハイリスク児の養護と発達促進.
今日の治療指針私はこう治している
2011. ,1149-1150,2011
 2. 田中恭子(編) 子ども療養支援協会;平成
23 年度子ども療養支援士認定コース教育
要項,平成 23 年度子ども療養支援士認定
コース教育要項,2011
 3. 田中恭子(編) 子ども療養支援協会;平成
23 年度子ども療養支援協会総会・記念行
事資料集,平成 23 年度子ども療養支援協
会総会・記念行事資料集,1-24,2011
 4. 田中恭子(編) 子ども療養支援協会;平成
23 年度子ども療養支援協会ニューズレタ
ー創刊号,平成 23 年度子ども療養支援協
会ニューズレター創刊号,1-8,2011
 5. Tanaka K, Oikawa N, Terao R, Negishi
Y, Fujii T, Kudo T, Shimizu
T.;Evaluations of psychological
preparation for children undergoing
endoscopy.,J Pediatr Gastroenterol

- Nutr,52 : 227-229.,2011
6. 田中恭子.;NURSE TREND ここが押さえどころ 子ども療養支援協会が発足 子どもの人権に配慮した小児医療の実現に向けて.,Nursing BUSINESS ,5 : 330-331.,2011
 7. 田中恭子.;認知発達 : 年齢に応じた認知・発達の評価方法について教えてください., 周産期医学,41 : 1315-1321.,2011
 8. 田中恭子.;ことば発達 : 言葉の遅れの評価と対応方法について.,周産期医学,41 : 1322-1328,2011
 9. 田中恭子.;【周産期医学必修知識 第7版】 368. 乳幼児保育とテレビ.,周産期医学,41(増) : 1051-1053,2011
 10. 田中恭子.;小児の入院には親の付き添いが必要ですか.,小児内科,43 : 40-43,2011
 11. 田中恭子.;検査手技に対して恐怖心をおこさせないためにどのような配慮が必要ですか.,小児内科,43 (増) : 266-9,2011
 12. 田中恭子. 早田典子;伊藤隼也が行く Vol22 順天堂大学附属医院 CLS 早田典子さん.,アンフィニ,2011 年春号 : 18-21,2011
 13. 田中恭子.;タイムスインタビュー 順天堂大学医学部小児科学講座准教授 子ども療養支援協会理事・事務局長 田中恭子氏.,医療タイムス 2011 年 6 月 6 日,2014 : 21-33,2011
 14. 田中恭子.;赤ちゃんの能力を引き出す! ママさん小児科医が教える「月齢別 おもちゃの正しい選び方」.,e-mook Sassy. , : ,2011
 15. 田中恭子.;パネルディスカッション の権利法大綱案実行委員会試案をめぐって 医療を受ける子ども.,日本弁護士連合会第 54 回人権擁護大会シンポジウム第 3 分科会 患者の権利法の制定を求めて～いのちと人間の尊厳を守る医療のために～ 資料集 : 12-31,2011
 16. 田中恭子.;成長ゆっくりめの赤ちゃん大集合～その子なりのペースでがんばっています (監修) .,Baby-mo. 主婦の友社, 東京,12 月号 : 118-123,2011
 17. 田中恭子.;Q こども療養支援士について., 日本医事新報,4579 : 80-82,2012
 18. 田中恭子.;療養生活をおくる子どもの“心のケア”を担う「子ども療養支援士」の養成へ 子ども療養支援協会が発足 ～子どもの人権に配慮した小児医療の実現に向け～ 2011 年 7 月 1 日.,愛育ねっと (子ども家庭福祉情報提供事業) ,<http://www.aiikunet.jp> : ,2011
 19. 早田典子;同室児の死に直面した思春期女児へのグリーフケア,小児看護,34 : 333-338,2011
 20. 早田典子 田中恭子;長期入院児を支える一遊びを通じた心のケア,小児外科,44 : 168-170,2012
 21. 櫻井淑男 田村正徳 島崎修次(監修) 前川剛志(監修) 他, 小児集中治療, 救急・集中治療レビュー 2012-13(総合医学社),2012;320-326

22. 大関武彦 古川漸 横田俊一郎 水口雅田村正徳 他, 倫理面からみた新生児医療治療方針の意思決定, 今日の小児治療指針 第 15 版(医学書院),2012;174-175
23. Iwata O, Nabetani M, Takenouchi T, Iwaibara T, Iwata S, Tamura M; on behalf of the Working Group on Therapeutic Hypothermia for Neonatal Encephalopathy, Ministry of Health, Labor and Welfare, Japan, and Japan Society for Perinatal and Neonatal Medicine.; Hypothermia for neonatal encephalopathy: Nationwide Survey of Clinical Practice in Japan as of August 2010.. *Acta Paediatrica*. 2011;
24. Seiichiro Inoue, Akio Odaka Daijyo, Daijo Hashimoto, Reiichi Hoshi , Clara Kurishima, Tetsuya Kunikata, Hisanori Sobajima, Masanori Tamura, Junichi Tamaru; Rare case of disseminated neonatal zygomycosis mimicking necrotizing enterocolitis with necrotizing fasciitis. *Journal of Pediatric Surgery*. 2011; 46(10):E29-E32
25. Kuwata S, Senzaki H, Urushibara Y, Toriyama M, Kobayashi S, Hoshino K, Arakawa H, Tamura M.; A case of acute encephalopathy with biphasic seizures and late reduced diffusion associated with *Streptococcus pneumoniae* meningoencephalitis.. *Brain Dev*. 2011;
26. Takenouchi T, Iwata O, Nabetani M, Tamura M; Therapeutic hypothermia for neonatal encephalopathy: JSPNM & MHLW Japan Working Group Practice Guidelines Consensus Statement from the Working Group on Therapeutic Hypothermia for Neonatal Encephalopathy, Ministry of Health, Labor and Welfare (MHLW), Japan, and Japan Society for Perinatal and Neonatal Medicine (JSPNM). *Brain Dev*. 2011;
27. Shoichi Ezaki, Kanako Itoh, Tetsuya Kunikata, Keiji Suzuki, Hisanori Sobajima, Masanori Tamura; Prophylactic Probiotics Reduce Cow's Milk Protein Intolerance in Neonates after Small Intestine Surgery and Antibiotic Treatment Presenting Symptoms That Mimics Postoperative Infection. *Allergology International*. 2011;
28. Clara Kurishima, Mashayo Tsuda, Yuko Shiima, Masashi Kasai, Seiki Abe, Jun Ohata, Hiroaki Shigeta, Satoshi Yasukochi, Masanori Tamura, Hideaki Senzaki; Coupling of central venous pressure in a 6-years-old patient with fontan circulation and intracranial hemorrhage. *The Annals of Thoracic Surgery*. 2011; 91(5):1611-1613
29. Yoshio Matsuda, Masanori Tamura; Recent topics from the Japan society of perinatal and neonatal medicin. *Japan Medical Association Journal*. 2011; 54(2):123-126

30. Ishiguro A, Sekine T, Suzuki K, Kurishima C, Ezaki S, Kunikata T, Sobajima H, Tamura M; Changes in skin and subcutaneous perfusion in very-low-birth-weight infants during the transitional period. *Neonatology*. 2011; 100(2):162-168
31. Seiichiro Inoue, Akio Odaka, Daijo Hashimoto, Masanori Tamura, Hisato Osada; Gallbladder volvulus in a child with mild clinical presentation. *Pediatr Radiol*. 2011; 41(1):113-116
32. 櫻井淑男 小林信吾 田村正徳; 救急車搬送データを用いた小児重症患者集約化の評価法. *日本小児救急医学会雑誌*. 2011; 10(3):376-380
33. 櫻井淑男 田村正徳; 埼玉県で発生した症に心肺停止患者に対する病院前救護の実態調査. *日本小児科学会雑誌*. 2011; 115(8):1328-1332
34. 浅野祥孝 布施至堂 櫻井淑男 田村正徳; 東日本大震災被災地からの活動報告. *日本小児科学会雑誌*. 2011; 115(5):967-968
35. 田村正徳; 新生児医療と重症心身障害児医療. *日本重症心身障害学会誌*. 2011; 36(1):65-70
36. 滝敦子 奥起久子 渡部晋一 田中太平 中村友彦 田村正徳; NICU から退院できない長期人工呼吸管理患者の現状と在宅医療移行への阻害要因についての検討. *日本未熟児新生児学会雑誌*. 2011; 23(1):75-82
37. 田村正徳 武内俊樹 岩田欧介 鍋谷まこと; 本邦における新生児低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法の指針. *日本未熟児新生児学会雑誌*. 2011; 23(2):217-220
38. 田村正徳; シンポジウム 2:NICU と重症心身障害児(者)施設(病棟)との連携:新生児医療と重症心身障害児医療. *日本重症心身障害学会誌*. 2011; 36(1):65-70
39. Iwata S, Bainbridge A, Nakamura T, Tamura M, Takashima S, Matsuishi T, Iwata O.; Subtle white matter injury is common in term-born infants with a wide range of risks.. *International journal of developmental neuroscience*. 2010; 28(7):573-580
40. Perlman JM, Wyllie J, Kattwinkel J, Atkins DL, Chameides L, Goldsmith JP, Guinsburg R, Hazinski MF, Morley C, Richmond S, Simon WM, Singhal N, Szyld E, Tamura M, Velaphi S; Special Report Neonatal Resuscitation: 2010 International Consensus on Cardiopulmonary Resuscitation and Emergency Cardiovascular Care Science With Treatment Recommendations. *Pediatrics*. 2010; 126(5):e1319-e1344
41. Perlman JM, Wyllie J, Kattwinkel J, Atkins DL, Chameides L, Goldsmith JP, Guinsburg R, Hazinski MF, Morley C, Richmond S, Simon WM, Singhal N, Szyld E, Tamura M, Velaphi S; Neonatal Resuscitation Chapter Collaborators.; Part 11: neonatal resuscitation: 2010

- International Consensus on Cardiopulmonary Resuscitation and Emergency Cardiovascular Care Science With Treatment Recommendations.. *Circulation*. 2010; 122(16 Suppl 2):S516-538
42. Wyllie J, Perlman JM, Kattwinkel J, Atkins DL, Chameides L, Goldsmith JP, Guinsburg R, Hazinski MF, Morley C, Richmond S, Simon WM, Singhal N, Szyld E, Tamura M, Velaphi S; Part 11: Neonatal Resuscitation: 2010 International Consensus on Cardiopulmonary Resuscitation and Emergency Cardiovascular Care Science With Treatment Recommendations. *Resuscitation*. 2010; 81(Suppl 1):e260-87
43. Sakurai Y, Tamura M.; Is electric impedance tomography the white knight for acute respiratory distress syndrome?. *Pediatr Crit Care Med*.. 2010; 11(5):639-640
44. Madoka Aizawa, Katsumi Mizuno , Masanori Tamura; Neonatal sucking behavior: Comparison of perioral movement during breast-feeding and bottle feeding. *Pediatrics International*. 2010; 52(1):104-108
45. Yoshio Sakurai.Toru Obata.Akio Odaka.Katsuo Terui.Masanori Tamura.Hideki Miyao; Buccal administration of dexmedetomidine as a preanesthetic in children. *J Anesth*. 2010; 24:49-53
46. 櫻井淑男 田村正徳; 埼玉県における小児患者救急車搬送データにもとづいた中核病院候補選定の妥当性. *日本小児科学会雑誌*. 2010; 114(12):1925-1927
47. ; 長期入院児支援システム. *母子保健情報*. 2010; 62:1-10
48. 五十嵐隆編 渡辺とよ子編 田村正徳他 79 名; 重篤患児の家族との話し合いのガイドライン. *小児科臨床ピクシス 16 新生児医療*. 2010; 26-27
49. 田村正徳; 新生児救急医療の発展と課題. *小児保健研究*. 2010; 69(2):195-201
50. 櫻井淑男 鈴木伸一朗 山崎博 栃木武一 宮崎通泰 田村正徳 赤司俊二; 埼玉県全域における小児救急患者救急車搬送の現状分析. *日本小児科学会雑誌*. 2010; 114(3):525-530
51. 田村正徳 宮川哲夫 福岡敏雄 木原秀樹; NICU における呼吸理学療法ガイドライン(第 2 報) . *日本未熟児新生児学会雑誌*. 2010; 22(1):139-149
52. 藤村正哲監 田村正徳編 森林太郎編他; 改訂 2 版 科学的根拠に基づいた新生児慢性肺疾患の診療指針. 改訂 2 版 科学的根拠に基づいた 新生児慢性肺疾患の診療指針 (MC メディカ出版). 2010; 1-128
53. Ezaki S, Suzuki K, Takayama C, Tamura M, et al; Resuscitation with mask CPAP - Is it useful for reducing oxygen exposure and oxidative stress in

- preterm infants?. J Paediatr Child Health. 2009; 45(s1):A116
54. 齋藤誠 宮園弥生 田村正徳; ハイリスク新生児の医療体制をめぐる「話し合い」のガイドライン. 小児看護. 2009; 32(13):1705-1711
55. 田村正徳; 周産期医療体制の問題点と今後の展望—新生児科の立場から—. Fetal&Neonatal Medicine. 2009; 1(1):24-28
56. 田村正徳; 助かる命を救う術、普及が進む新生児蘇生法. インスパイア(エア・ウォーター株式会社). 2009; 11:2-5
57. 櫻井淑男 田村正徳; 埼玉県小児救急車搬送年間データからみた小児救急医療における救命救急センターの役割. 日本小児救急医学会雑誌. 2009; 8(3):288-292
58. 山口文佳 田村正徳; 新生児科からみた成育限界へのチャレンジ. 周産期医学(東京医学社). 2009; 39(10):1311-1316
59. 田村正徳; 長期入院事例 まとめ. 周産期医学(東京医学社). 2009; 39(9):1244-1248
60. 山口文佳 田村正徳; 新生児医療における生命倫理的調査結果 第 1 部 —在胎 22 週児への対応—. 日本周産期・新生児学会雑誌. 2009; 45(3):864-871
61. 田村正徳; 予後不良児に対する治療方針の齟齬. 2009; 39(8):1087
62. 櫻井淑男 長田浩平 森脇龍太郎 堤晴彦 田村正徳; 小児三次救急集約化のために救命救急センターをいかに活用すべきか. 日本小児科学会. 2009; 113(8):1264-1267
63. 田村正徳; 新生児仮死の不適切な蘇生. 周産期医学. 2009; 39(8):1048
64. 田村正徳; 人工呼吸療法の新しい展開—病態に応じたエビデンスに基づく"肺と脳に優しい"人工呼吸管理戦略—. 周産期医学(東京医学社). 2009; 39(7):839-840
65. 長田浩平 櫻井淑男 浅野祥孝 小林貴子 荒川浩 森脇浩一 田村正徳; 地域中核施設における"準小児集中治療室"の意義. 日本小児科学会. 2009; 113(7):1141-1145
66. 山口文佳、田村正徳; 新生児医療における生命倫理的調査結果報告第四部 「蘇生の時間」と「病理解剖率」. 日本周産期・新生児学会雑誌. 2009; 45(2):757
67. 山口文佳、田村正徳; 新生児医療における生命倫理的調査結果報告第三部 18 トリソミー児への対応. 日本周産期・新生児学会雑誌. 2009; 45(2):756
68. 山口文佳、田村正徳; 新生児医療における生命倫理的調査結果報告第二部 出生体重 400 g 未満児への対応. 日本周産期・新生児学会雑誌. 2009; 45(2):565
69. 山口文佳、田村正徳; 新生児医療における生命倫理的調査結果報告第一部 在胎数 22 週児への対応. 日本周産期・新生児学会雑誌. 2009; 45(2):565
70. 櫻井淑男 田村正徳; トラブル回避と対応. 小児科診療(診断と治療社). 2009; 72(6):1027-1033

